メディアを利用しての健康教育の可能性
(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

青池愼一

要約：マス・メディアを利用して、小児の事故防止を推進することの可能性を検討し、マス・メディア利用の有効性を確認した。

見出し語：マス・メディアの社会化機能、マス・メディアの論点設定機能、普及理論、マス・メディアの送り行動基準。

【研究目的】

本研究の目的は、マス・メディアやマス・コミニュケーションの利用が、小児の事故防止にどの程度貢献する可能性を持っているかを検討することである。今日、小児の死亡原因の第一位は不慮の事故であるとされているように、小児の事故防止はきわめて重要な社会的課題なのである。小児の事故防止を推し進めていく上で、マス・メディア利用によるキャンペーンなどが有効性を持ちうるのであろうかを検討していくものである。

小児の事故発生には、様々な要因が係わり合っているであろうが、本研究の目的である小児の事故防止におけるマス・メディアの利用可能性の検討にとって考慮すべき要因として、少なくとも二つの要因が考えられるであろう。

その第一は、家庭や社会へのイノベーションの急速な普及とそれらに対応すべき人々や使用者における知識や技能の更新との間のタイムラグもしくはギャップの存在であろう。今日、イノベーション、すなわち新製品、新設備、新施設、新素材などが普及していっているが、このことは、人々が持っている旧来からの知識や技能を珍腐化し、その有効性を失わせていくのである。人々はイノベーションに対応する新たな知識や技能を習得することが必要であるが、この習得は新製品などの普及速度に比較してタイムラグを持ちがちであり、

慶応義塾大学文学部 (Faculty of letters, Keio Univ.)

イノベーションとその使用者側の知識や技能との間にギャップが生じ、それが事故の一因となるのである。

第二に、一般的に言って家庭における社会化力が低下していることである。社会化とは、人々にその社会で生活していく上で必要とされる知識や技能、価値、行動様式を教えることであるが、今日、家庭の子供に対する社会力はかつてに比べて相対的に低下しているのである。それ故、小児の事故防止に必要とされる知識や技能が子供に十分に教えこまれない可能性があるのである。家庭の社会化力の相対的低下の原因としては、核家族化、父親の仕事のための不在、そして、イノベーションの普及による親の知識や技能の妥当性の低下などがあろう。

I. マス・コミュニケーション諸理論の検討

小児の事故には多くの原因があろうが、本研究においては、序において示した二要因に着目したのである。すなわち、人々が保持している事故防止のために必要な知識、技能は、イノベーションの急速な普及という状況においては、その有効性は失なわれ、それを補うための新しい知識、技能の習得の必要が生じるのであるが、そのことは十分には行われにくいこと、そして、事故防止のために必要な知識や技能を子供に教える家庭の力が相対的に低下しているという二要因に焦点をおいたのである。したがって、保護者や小児に、事故防止のための知識、技法をいかに獲得させていくかが重要な問題となるのである。それ故、本研究においては、この点に関して、マス・メディアの可能性を検討したのであるが、可能性を検討する上で重要なマス・コミュニケーション理論として、以下の諸理論が重要である。

1) マス・コミュニケーションの機能論

マス・メディアやマス・コミュニケーションが、人々や社会に対して、いかなる機能を持っているかについて検討されてきているのであるが、その中にあって、マス・メディアの社会化機能の存在が確認されてきている。

社会化の担い手として、家族、学校などが存在しているが、今日より重要性を高めてきているのがマス・メディアやマス・コミュニケーションである。それには、様々な要因があるが、それはともかくとして、マス・メディアの社会化機能の存在は確認されている。マス・メディアの社会化機能を用いて、事故防止に必要な知識、技能の社会化を行うことのできる可能性は高いが、社会化機能という時に直ちに連想される教育放送の利用だけに限定される必要はない。社会化機能をはたしているのは、教育番組だけではないことは、利用と満足アプローチによる機能分析によって明らかにされていることであり、娯楽番組も社会化機能を持っているのである。

この問題に関して、機能論の検討を通して注目されてくるもう一つの機能はマス・メディアの論点（議題）設定機能である。これは、マス・メディアが、人々に何について感心を持つ問題であるかを認識させる働きである。

人々が知識や技能を獲得する度合いは、本人がその問題に関心を持ち、積極的な情報探索行動が動機づけられた時にきわめて高いものとなるのである。関心を持たない人や情報欲求を持たない人に、いくら情報を送り出しても、それらの情報はそれ程受容されないのである。したがって、人々

に小児の事故や事故防止に対する関心を高めることは、事故防止のために必要な知識・技能が人々に習得されるためにはきわめて重要であり、マス・メディアの論点設定機能を用いた小児の事故防止活動は重要である。

2）普及理論

小児の事故防止にとって重要なことは、イノベーションに対応する知識や技法、行動様式が人々に普及することであるが、この普及に関する研究が蓄積され普及理論として確立している。この普及理論の検討を通して、事故防止のために必要な知識、技法、行動様式の保護者や小児への普及戦略が明確になり、マス・メディアの可能性も確認された。

その中の一つを取り上げるならば、マス・メディアの可能性をより確実にするためには、インターパーソナル・コミュニケーションとの結合を行い相互補完関係を作り上げることである。すなわち、メディアフォーラムの展開である。

3）マス・メディアの送り行動研究ーコミュニケーター理論

マス・メディアを通して、小児の事故防止のために必要な知識、技法を保護者や小児に提供していくことは、きわめて重要であるがそれを行うための方法として大きく二つある。一つは、スポンサーとなり広告・広報活動の枠組みの中でそれを行っていくことである。もう一つは、マス・メディアの通常の番組の中で扱ってもらい、それを通して保護者や小児に情報を送り出す方法である。

この方法による可能性を検討するためには、マス・メディアの送り行動に関する研究の成果を検討することが重要である。この研究分野は日本のマス・メディアに関してはデーター不足であるが、小児の事故というトピックは、マス・メディア（コミュニケーター）の送り行動基準（ゲートキーピング基準）に適うテーマであると思われるのである。

II. まとめ

以上によりマス・メディアの可能性は確認された。実際の展開のためには、人々のメディア接触行動分析などが必要である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:マス・メディアを利用して、小児の事故防止を推進することの可能性を検討し、マス・メディア利用の有効性を確認した。